



2019 年度（平成 31 年度・第 5 期）

事業計画書

1. 2019 年度 事業方針
2. 2019 年度 事業計画書
3. 2019 年度 活動予算書
4. 中期計画目標（2025 ビジョン）

1. 2019 年度 事業方針

今年度の事業方針、1つ目の「病弱児の身体的精神的状態に合わせた学習復学支援事業」については、支援自体の個別性が高いことから、個別訪問支援や同時双方向によるWEBでの支援が主な事業になってきます。昨年度、備前県民局との協働事業によって広がったネットワークから個別支援の輪も広がりました。ベネッセこども基金からの助成により3年間行ってきましたICT利用による双方向WEBは事業ノウハウを得たことで、中間支援という形での継続助成が行われることとなりました。また昨年度、文部科学省が通知として出したICT利用による遠隔授業の出席単位認定を受け、当法人でもその事業に岡山県教育委員会特別支援教育課や早島支援学校と共に新たに取り組んでいきたいと考えています。全ての活動に欠かせないボランティアの募集や育成プロジェクトについては、各2～3回ずつの実施を想定し、県内各地の大学や行政と連携しながら年間を通して十分な大学生ボランティアを確保すると共に、病弱児の支援に従事できるスタッフの育成に力を入れます。

2つ目の「病弱児同士の交流や集団での学習活動支援事業」については、岡山市小児慢性特定疾病児童等相互交流支援業務を中心として、子どもたちとの交流による様々な支援を継続して行っていきます。体験交流活動においては、夏祭りやクリスマス会などの恒例の会を継続しながら、支援拠点やバリアフリー会場での学習体験活動も行っています。また、保護者交流会「ほっとスペース」の開催も行います。企画運営についてはスタッフやボランティアが一体となり、子どもたちや家族が安心して過ごせる環境をつくっていきます。

3つ目の「病弱児への支援に関する啓発・講演活動及び講師派遣業」では、今年度も当法人の主催で副島先生の講演会を開催すると共に、大学の教育学部や看護学校等での講義をはじめ、各方面

からの依頼による病弱児の理解啓発のための講演活動も代表の三好、エバンジェリストの下川を中心に引き続き行っていきます。

以上の事業から、2025年ビジョンに掲げる「環境をつくる」「生きる力を育む」「人や気持ちを繋ぐ」の3つの礎を作っていく年度として、邁進していく所存です。

そして、私たちの解決したい社会課題には大きなコストがかかってくる。2025ビジョンに向け今後、スタッフの増員や事業のさらなる展開を視野にいたしたファンドレイジングにも力を入れていきたいと考えています。前年度「グッドガバナンス認証」と「認定NPO法人」という二つの安心の要を得ることができました。その安心の要の力を借り、強力なパートナーシップをとれる「仲間」を増やしていくという目標も達成し事業に活かしていきたいと考えています。

今年度は、この事業計画を動かしていく目標として「Do Communication（積極的にコミュニケーションをとろう!）」をスローガンに、法人内はもちろん外へ向いても情報発信を通じて、コミュニケーションの循環を行っていくという目標を立てました。しっかりとスタッフやボランティアがコミュニケーションを取りながら、共通理解を図り足並みを揃えることでみんなが一緒に同じ方向へ進んでいきます。外へ向いても積極的な発信の下、支援の先に見える子どもたちの未来や社会課題を伝えながら、支援に必要な仲間とのつながりや資源の確保に努めていきたいと思えます。

それら全てを通して、ビジョンである「病気を抱える子どもが将来に希望を持ち自分らしく暮らせる（地域や）社会」を作るため邁進していきます。今年度も認定特定非営利活動法人ポケットサポートの活躍への期待と共に、活動へのご支援・ご協力の程どうぞよろしくお願いいたします。

代表理事 三好 祐也

2. 2019年度（平成31年度・第5期）事業計画書

(1) 病弱児の身体的精神的状態に合わせた学習復学支援事業

事業名	事業内容	区分	日時・場所	支出見込額
個別学習支援	自宅療養中や復学初期の子どもに対するの学習サポート	自主	随 時	800,000
双方向WEB学習支援	ICT機器とWEBを活用した学習支援	助成	随 時	800,000
VR体験学習	病気や身体的な障害により体験できなかったことを、仮想現実で体験	自主	随 時	300,000
ボランティア育成	学習支援及び相互交流支援を行う人材育成、ボランティアリーダー育成	助成	年6回 公共施設等	1,000,000
小計				2,900,000

(2) 病弱児同士の交流や集団での学習活動支援事業

事業名	事業内容	区分	日時・場所	支出見込額
ポケットスペース	利用者の環境に応じた相互交流、ピアサポート相談、学習支援を実施	受託	年間150日 市内3拠点	3,000,000
交流イベント	季節に応じた交流イベントの開催	助成	年4回 公共施設等	300,000
きょうだい・家族ケア	当事者同士の語らいによるピアサポート、自分らしい家族形成支援	自主	年4回 公共施設等	300,000
小計				3,600,000

(3) 病弱児への支援に関する啓発・講演活動及び講師派遣業

事業名	事業内容	区分	日時・場所	支出見込額
講師派遣事業	大学等の教育機関や研修会等に講師を派遣し病弱児支援について広報、周知活動	謝金	随 時	592,000
副島先生講演会	病弱児の教育や療養環境について講演会開催	自主	8月：岡山大学 Jホール	400,000
小計				982,000

事業費合計：7,492,000円

3. 2019年度（平成31年度・第5期）活動予算書

		平成31年度 予算額	
【経常収益】			
【受取会費】			
正会員受取会費	300,000		
賛助会員受取会費	500,000	800,000	
【受取寄付金】			
受取寄付金	2,500,000		
ボランティア受入評価益	400,000	2,900,000	
【受取助成金等】			
受取助成金		3,000,000	
【事業収益】			
自主事業収益(イベント収益、執筆)	50,000		
受託事業収益	1,800,000		
事業収益1(講演料)	470,000		
事業収益2(個別訪問学習支援)	100,000	2,420,000	
【その他収益】			
受取利息	30		
雑収益	200,000	200,030	
経常収益計			9,320,030
【経常費用】			
【事業費】			
(人件費)			
給料手当(事業)	2,500,000		
役員報酬(学習支援)	1,776,000		
臨時雇賃金	200,000		
ボランティア評価費用	300,000		
法定福利費(事業)	500,000		
福利厚生費(事業)	10,000		
人件費計	5,286,000		
(その他経費)			
業務委託費	180,000		
諸謝金	100,000		
印刷製本費(事業)	100,000		
図書費(事業)	20,000		
会議費(事業)	30,000		
旅費交通費(事業)	150,000		
通信運搬費(事業)	100,000		
文具費(事業)	50,000		
水道光熱費(事業)	36,000		
消耗品費(事業)	500,000		
広告宣伝費(事業)	50,000		
会場費(事業)	50,000		
賃借料(事業)	530,000		
保険料(事業)	30,000		
支払手数料(事業)	80,000		
雑費(事業)	200,000		
その他経費計	2,206,000		
事業費計		7,492,000	
【管理費】			
(人件費)			
役員報酬	444,000		
給料手当	300,000		
ボランティア評価費用	100,000		
法定福利費	100,000		
人件費計	944,000		
(その他経費)			
会議費	20,000		
図書費	2,000		
旅費交通費	30,000		
通信運搬費	50,000		
消耗品費	20,000		
地代家賃	100,000		
諸会費	5,000		
租税公課	3,000		
支払手数料	30,000		
雑費	100,000		
その他経費計	360,000		
管理費計		1,304,000	
経常費用計			8,796,000
当期経常増減額			524,030
【経常外収益】			
経常外収益計			0
【経常外費用】			
過年度損益修正損		0	
経常外費用計			0
税引前当期正味財産増減額			524,030
当期正味財産増減額			524,030
前期繰越正味財産額			1,162,826
次期繰越正味財産額			1,686,856

4. 中期計画目標（2025 ビジョン）

Vision

（解決を目指す社会問題および実現を目指す理想像）

病気を抱える子どもが、将来に希望を持ち自分らしく暮らせる社会をつくる

Mission

（ポケットサポートが社会で果たすべき使命）

1. 『環境をつくる』

病気を抱えていても子どもらしい時間が過ごせるように
学習支援・復学支援・自立支援ができる環境をつくる

2. 『生きる力を育む』

病気による困難を抱えていても前向きに生きていけるよう
当事者や専門家と共に子どもや家族の「生きる力」を育む

3. 『人や気持ちを繋ぐ』

病気の子どもに関わる人をつなぐコーディネートを行うと共に
社会への理解啓発を行い理解者・支援者を増やしていく

<2025 年度に実現を目指す社会や対象の状況>

1. 『環境をつくる』取り組み

- ①学習、遊び、体験、相談を通じた復学支援・自立支援を行う
- ②外出困難な子どもや家族へ、アウトリーチやICT利用による学習や相談支援を行う
- ③入院中や療養中の子どもの対応を個別に検討
- ④教育行政や学校現場と連携し、慢性疾病等の小学生～高校生の入院中及び療養中の教育機会の提供を目指す(ICT利用による学習、出席代替のシステム作り等)
- ⑤スタッフ及び支援ボランティアをはじめとする支援者の育成と教育
- ⑥岡山市内・近隣地域を含む医療機関内での支援活動を行う

2. 『生きる力を育む』取り組み

- ①子どもたちが自分自身の困難を知り「伝える努力」と「休む勇氣」を持てるようピアサポートを通じて、合理的配慮を得るための手法を伝え広める
- ②保護者が集まり日頃の悩みを話す場、ピアカウンセリングできる場を提供
- ③病弱児やそのきょうだいも楽しめるイベントを開催
- ④病弱の若年者が働ける環境作りの協力と支援

3. 『人や気持ちを繋ぐ』取り組み

- ①医療・保健行政との連携による、慢性疾患児やその家族との関係構築
- ②岡山市内・近隣地域の学校との連携による、慢性疾患児の学校生活における個別案件の共有
- ③他の病弱児支援団体との連携やノウハウの共有・会の共催
- ④病弱児の置かれている環境の理解を広げる講演・啓発活動開催、ツール作成